

2024 年 10 月 6 日 午前 10 時 30 分
聖霊降臨節第 21 主日 主日礼拝 (世界聖餐日)
司会 廣瀬一寛
奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(賛美歌練習 平和のめざす)

前奏
招きのことば エフェソ 2:14-19(抜粋)
讚美歌 21「主をほめたたえよ」 一同
交読詩編 73:21-28(P.84/80)

祈り 司会者
《関東教区お祈りカレンダー》
日立教会 下館教会 石岡教会
(主の祈り)

讚美歌 376(1-3)「人の知恵と言葉を超え」 一同

聖書 新約 フィリピ 1:27-30(P.362)

メッセージ『だから今日、希望がある』
祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 “だから今日、希望がある”(P.ノサ) 一同
< 聖餐式(主の食卓) 讚 375 >

献金 一同
(献金感謝の祈り)

信仰告白 (カナダ合同教会) 一同

頌栄 26
祝禱 川上 盾 牧師
後奏
報告・紹介

<招きのことば> エフェソ 2:14-19(抜粋)
実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、敵意を減らし平和の福音を告げ知らせられました。従って、あなたがたはもはや外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族なのです。

《10 月礼拝当番》 手塚福治 岩淵デボラ
大野美子 今村玲子
村上祐介 廣瀬眞理

《今週の集会・行事》
◎ 本日礼拝後 “教会げんてん” うどん食堂 10 月定例役員会
◎ 8 日(火) 牧師、人権同和研修会(高崎)
◎ 9 日(水) 婦人会例会(安中教会訪問)
教会カレンダーでは 9:15 出発となっていますが、**9:00 集合・出発**の誤りでした。ご訂正下さい。
◎ 9 日(水) 牧師、新島学園特別伝道礼拝
◎ 12 日(土) 10:00 会堂清掃 A 組
◎ 12 日(土) 牧師、“牧師JAZZ”(大宮教会)
昨年“3℃”でお招きした森下滋さんとの共演です

《次週の主日》
◎ CS朝礼拝 9:15
◎ 主日礼拝 10:30
メッセージ『誰かの犠牲による救い』
聖書:旧約 士師記 11:29-40(P.402)
新約 ヘブライ 9:11-15(P.411)
讚美歌 20, 211, 513, 27
交読詩編 130:1-8(P.149/145)
司会:畠中祥世 奏楽:川名ひさ子

《予告》
◎ 地区教育部『みんなの集い』(BBQ) 10/14(月)
於・藤岡 土と火の里公園
◎ 関東教区部落解放講座 10/19(土) 於・太田八幡教会

《報告》
◎ **本日は世界聖餐日礼拝です**
世界では今、あちこちで争いが続いています。しかしその現実には「慣れ切って」しまわずに、平和を願う粘り強い思いを確かめましょう。世界の人々と共に主の食卓にあずかり、平和への思いを新たにしましょう。



◎ **地区教育部主催『みんなの集い』(10/14)**
再度の呼びかけです。藤岡“土と火の里公園”にて、10:30~14:00 まで。参加費こども 1,000 円、中学生以上 2,000 円、未就学児は無料。

◎ **部落解放運動、二つの集会あんない**
① 群馬同宗連『人権同和研修会』10/8(火)13:30
アイリッシュハーブの演奏とおはなし。入場無料。申込不要。高崎シティギャラリー・ゴアホールにて。
② 関東教区『部落解放講座』10/19(土)13:00

関東水平社百周年にあたり、解放運動の歴史と今日の課題を学びます。太田八幡教会。

◎ **クリスマス・ジャズ・コンサート (11/30)**
チラシができました。まだ 2 ヶ月ありますが、宣伝・案内を始めましょう。チケットお入り用の方は牧師まで。なお、もうひとつ計画されていたクリスマスコンサート(ヴァイオリン&ピアノ、12/14)は、演奏者の方が大きな怪我をされたために、残念ながら中止となってしまいました。

◎ **能登半島水害救援募金**
しばらく募金を続けます。ご協力ください。

《消息》
◎ 川上ゆり子さん・・・お父さまの井口實さん(安中教会員)が、9 月 30 日に主の元に召されました。葬儀は安中教会で 10/3 に行われました。主の慰めをお祈りいたします。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	46	24	32,590

能登半島水害救援募金 17,850(9/29)

《メッセージ》『その日その時また神が知る』川上盾牧師
ダニエル 12:1-4, II コリント 5:1-10 (9 月 29 日)
▼今日の旧約・ダニエル 12 章は、旧約聖書で唯一といわれている「個人の復活」が語られる場所である。ちょうど 40 年前、神学部の大学院生として修士論文を執筆していた時に、この箇所も取り上げた。(論文のタイトルは「旧約聖書神学における復活の問題」)▼旧約の古い資料では、実は死後の世界への関心はあまり深くない。「アブラハムは満ち足りて死に、先祖の列に加えられた」(創 25:8)それで十分だ... そんな死生観がそこにはあった。
▼ところが歴史的な状況によって事情が変わる。個人の復活の信仰が強く求められる時代が来たのだ。それはイスラエルを支配する諸外国からの弾圧という状況であった。そのような中で記されたのがダニエル書である。▼ダニエル書の舞台はバビロン捕囚期のユダ(B.C.6C.)。しかし実際に執筆されたのは、シリアのセレウコス王朝によってユダヤが支配された時代(B.C.2C.)とされる。この時、厳しい宗教弾圧が加えられた。ギリシャの神々の像が建設され、ユダヤ人にも参拝が強要された。(日本にも戦時中、朝鮮のキリスト者に神社参拝を強要した反省すべき歴史がある。)▼偶像崇拜の禁止という立場でこの命令を拒んだ人がいた。これらの人は捕され処刑された。いわば信仰を貫いて受難した人々(義人の苦難)。「その人たちが殺されて、それで終わりでは報われない!」そのような思いから、復活信仰が生まれていった。▼「義人の苦難」ということ言えば、イエス・キリストの十字架もまた同じ出来事である。ダニエル書の時代から受け継がれた信仰が、イエスの復活の物語にも大きく関係をしていく。▼この復活信仰が、初代教会に時代にはより対象が広がっていった。そのことを示唆するのが新約の箇所である。パウロが語る「神の住まい・永遠の命」とは、「苦難の義人たち」だけの復活ではなく、イエス・キリストを信じる者すべてに約束されたものと広がっている。▼パウロはこの復活の命への明確なビジョンや憧れがあった。だから復活について、かなり詳細な記述を残している(I コリント 15 章)。それが人々に希望と勇気を与えたことであろう。しかし私は、死後の世界や永遠の命について、詳細に語りすぎることに、ある種の「危うさ」を感じてしまう。▼「死後さばきにあう」そんな言葉をもって人心をコントロールし、行動を規制する...いわゆる「カルト宗教」の手法につながるのではないかである。誰も知らないはずの死後の世界を「私は知っている!」と断言する、そんな人の言説に縛られる危険がそこにはつきまとう。▼むしろ、死後の世界のこと、「それは私たち人間には分からない」という立ち位置がふさわしいのではないかと。『その日その時また神が知る』と。▼イエス・キリストが教えて下さったのは、死後の備えのために今を生きる、という生き方ではなく、今この時の人生を喜びをもって豊かに生きること、隣人と共に愛をもって生きることだと思ふのだ。